

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山南高等学校

学校番号(22)

| 評価・提言等 | 提言等に対する改善方策等 |
|---|--|
| <p>1 学校評価全体について</p> <p>今年度提起された「オール南高」体制のもと、全・定・分が協力し、充実した教育活動が展開され、生徒が生き生きと活動している。また数字がすべてを表す。学校の取組も数的に達成していなければ次年度への対策・改善点を考えなければならない。</p> | <p>全・定・分のPTA会長さんだけでなく、本校・分校の同窓会長さん、役員の方々にも好評価をいただき「オール南高」体制を支えてくださる機運が盛り上がっている。数値目標については、問題のある個所をしっかりと見直し、達成できるよう努めたい。</p> |
| <p>2 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <p>(全・定・分) それぞれに進学・就職で成果を出している。南高に来てよかったという思いを高めていくことが自己肯定感につながる。全・定・分を持つ素晴らしい環境を生かし、お互いの良いところを学び合ってほしい。学習環境の観点から老朽化の顕著な本校施設についての改善をお願いしたい。</p> <p>(分) 砥部分校の活躍をメディア等で多数見聞する。一時低迷していたが、魅力あふれる学校になり受検志願者を集めているのは嬉しい。</p> <p>(全・分) 台湾の修学旅行、科学交流・陶芸交流研修については、今後とも続けて行ってほしい。現在、愛媛県や松山市と台湾との交流も盛んになっており、海外に目を向けた活動は、生徒の学習面にも好影響を与えられられる。</p> <p>(定) 本日一番考えさせられたのは、定時制の在校生、志願者の減少である。少子化等の様々な理由はあるが、活気のある学習指導・活動を行うには、少人数に過ぎることは問題である。</p> | <p>学習活動だけでなく国体の開閉会式セレモニーや競技のボランティア等でも、他から高い評価をいただいた。生徒が成長しているということは、本校・分校を問わず言える。地域に貢献できる防災拠点校として、校舎の建て替え・高機能化、運動場の有効活用等も模索していきたいと考えている。</p> <p>砥部分校は、地域と強く結び付き、地域活性化のための核になっている。町長さんを始め多くの方の御支援をいただき様々な活動を行ってきた。今後は、国内の陶芸を学ぶ他県の高校との交流など、生徒の創作意欲を刺激する新しい学習活動にも着手していきたい。</p> <p>本当に台湾の学校との交流は有意義であった。生徒たちは訪問先に学校ですぐに打ち解け合い、学術的・芸術的な交流を行っていた。また、英語でのコミュニケーションの必要性、大切さを痛感できていた。</p> <p>定時制生徒の減少は、各地方都市で着実に進んでいる。私立通信制高校の台頭が目立っており、生徒を取られている。全日制においても私立高校推薦で1200名の合格者を出したと聞く。本校定時制も年間25名の入学者を出すため、松山工業・商業定時制、松山東通信制との違いを明確にし広報・宣伝活動を行っている。近い将来、県立高校の教育自体が成立しない危惧もあり、新発想の取組が必要となっている。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>(2) 生徒指導</p> <p>(全・定・分) 交通安全については、通学時の南高生のヘルメットの着用の様子やマナーはすばらしいと思う。この一年間大きな事故がなく良かったが、過去の痛ましい事故の記憶がまだまだ鮮明にある。今後も指導・点検を継続していただきたい。</p> | <p>交通ルールやマナーの指導を継続的にを行い、ヘルメットを着用し命を守る指導を充実させる。また、生徒の完全下校時間を厳守させ、交通事故防止の呼びかけにも力を入れるとともに、事故発生時の適切な対応についても指導を徹底したい。</p> |
| <p>(3) 進路指導</p> <p>(全・定・分) 自分自身は全日制の保護者だが、世の中には様々な職業がある。高校卒業後、大学卒業後を考えてキャリア教育を充実していくことが必要である。職業との結び付きや職業とは何かを考えていけるような進路指導をお願いしたい。</p> | <p>文部科学省中央教育審議会の答申を受け、新学習指導要領改正に向けて、不確実な社会を生きるために高校生に必要な力、付けるべきスキル等の議論がなされている。また、今年度は松山市が主催の東京にある地元企業訪問事業に本校生徒も参加した。</p> |
| <p>3 その他</p> <p>(全) 地域性が希薄になってきている今日、南高は地域と結びつくためにどのような努力をしているか。「地域創生」が叫ばれているが、県外の大学に進学した南高生が、地元に戻ってきて、「地域創生」に貢献してほしいと願っている。</p> | <p>学校行事では地域の皆さんに来校いただき地域とつながるよう取り組んでいる。実際のところ、本校は元来、地元志向の生徒が多い。また本校出身の、わたなべひろこ先生、大政謙次先生、萬井知康先生に御講演・御講義をいただき、濱田亨氏に作品を寄贈していただいたことで、世界で活躍する先輩が母校・地元に貢献する機会を目にした。これは、県外大学を目指す生徒たちにとっても刺激になった。</p> |